



土岐市 教育研究所
TEL 0572-54-1111 (内371)
FAX 0572-55-6310
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp
No.554
所長 三宅裕一
発行日 令和2年11月30日
題字 山田 恭正 教育長

『希望の窯 焼成』



撮影 濃南中学校
加藤 明覚/福井 達彦 先生



「教育にかける思い…」

土岐市教育研究所長 三宅 裕 一

市内すべての学校の管理訪問・教育長訪問が終了しました。コロナ禍ということで、例年の訪問とは違った形で行われました。新しい学校の生活様式の中、様々な工夫をしながら、しっかりとした教育活動が進められていることに、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

岸本裕史（ひろし）先生を知っていますか？2006年に亡くなりましたが、「百ます計算」の生みの親です。その「百ます計算」が注目を集め始めた頃から、学力の問題や学習の問題がクローズアップされてきたように思います。学習指導要領が時をおかずに何度も改訂される理由の一つも「学力」の問題です。

岸本先生が次のようなことを言われています。『親は、受け持ちの先生の教育的力量をどこで評価するかというたら、前の先生と比べて、どれだけ勉強するようになったか、ノートの使い方はどうか、テストの点はどうかといったことで見るのですね。すると、ノートの使い方とか、連絡帳の書き方なんかきれいになっているということになると、なんか一味違う先生だなと思うようになります』と。

これは、単純に子どもたちに勉強を強制して成

績アップにつなげていくといったことを言っているわけではありません。「学習」は学校生活の幹になる部分です。その「学習」に前向きに取り組んでいこうという姿勢をつくっていくことも、教師の重要で不可欠な仕事なのです。こういった指導がきちんとできる先生、きっと自分の周りにもおみえになると思います。その先生の指導法を是非、自分にも取り入れてみてください。きっと、子どもたちが変わってくるはずです。「勉強以外にも大切なことがある」、もちろんそうだと思います。一人一人が得意としているものを伸ばしていくということも、教師の大事な仕事の一つだと思います。

自分の仕事に誇りを持ち、自分を納得させながら前へ進んでいくことは、教師にとっては大切なことです。そして子どもたちには、たとえ不得意なことであっても諦めないで挑んでいく、惜しまず努力していくことの大切さを、熱い「ことば」で教えてほしいと思います。学習の具体的な方法や学習に関わる様々なことを、様々な場面で子どもたちに伝えてほしいと思います。先生方の教育にかける情熱は、必ず子どもたちのエネルギーに変わるはずです。

目の前にいる子どもが「家に帰りたくない。」
「親と一緒にいることが怖い。」と口にしたら、
私たち教職員はまず何を思えばよいのでしょうか。

東濃子ども相談センターに勤務させていただき半年が過ぎました。学校の現場とは違った側面から、子どもや保護者に関わらせてもらっています。また、子どもを支援する各機関と連携して様々な支援の仕方について学ばせていただいています。自身の家に安心して帰ることができない子たち、日々恐怖や不安と隣り合わせの子たち、「おうち」が何であるかさえない子たち…。そのような子どもたちに触れ、何か助けになることができないかと試行錯誤する毎日です。しかしながら、子ども相談センターに通告されるケースさえもほんの一部なのではないでしょうか。声に出したくても出せない、逃げたくても逃げられない、我慢し続けている子どもたちがそこかしこにいると思うと、居ても立ってもいられない気持ちになります。

昨年度、東濃地区5市での虐待対応件数は以下のようになっています。

- ・身体的虐待… 130件
- ・心理的虐待… 122件
- ・性的虐待…………… 0件
- ・ネグレクト………… 34件 /合計286件

5年前の平成26年度は、

- ・身体的虐待………… 45件
- ・心理的虐待………… 79件
- ・性的虐待…………… 3件
- ・ネグレクト………… 32件 /合計159件

となっており、大きく増加しているのがわかります。今年度は、昨年度の同時期と比較するとすでに上回っている状況です。

さらに今年度は、コロナ禍という例年とは異

なった社会状況下であり、虐待に関わる様子も様変わりしています。コロナ禍の高ストレスは、子どもへの虐待という形でも暗い影を落としているようです。

東濃地区内の学校を訪問すると、社会状況に影響を受けて不安を抱える子どもたちの気持ちに、例年以上に寄り添ってくださっています。教職員の皆さんのおかげで、子どもたちは安心して学校に通い、思う存分に力をつけていくことができます。しかしながら、そのようなことが叶わない子どもたちがいる事実もまたあります。虐待を受けている子どもたちは、自分から虐待を受けているとは言いませんし、自分から保護者を悪く言いません。その理由は、子どもは自分の帰る場所を全力で守ろうとするからです。言うことができている子どもたちは、ほんの一部に過ぎません。助けを求めたいのに口に出せない子どもたちに手を差し伸べるのは、学校の大きな役割です。

文部科学省は、学校が通告を判断するポイントを次のように示しています。

- ・確証がなくても通告すること（誤りであっても責任は問われない）
- ・虐待の有無を判断するのは児童相談所等（子育て支援課含む）の専門機関であること
- ・保護者との関係よりも子どもの安全を優先すること
- ・通告は守秘義務違反に当たらないこと

虐待を防ぐことは、子どもを守ることにとどまらず、保護者を支えることにもつながります。学校は、予め虐待を通告しなければならない機関であることを示しておくことで、防波堤としても良い相談先としても認識されます。

今日も子どもの幸せのために何ができるかを考えて動こうと思います。

プログラミング教育の実践について

1 研究テーマについて

泉小学校では「仲間と共に、問題を論理的に解決していくプログラミング的思考を育むためのカリキュラム・マネジメントと授業実践」をサブテーマとし、「追究する子」の具現を目指して研究を進めてきた。

その理由としては、複雑で変化に富んだ未来をたくましく生きていくために、子ども達には、筋道立てて粘り強く考える力（論理的思考力）が必要不可欠である。また、自分一人の考えだけでは解決できないとき、仲間と考えを出し合い、比較検討しながらよりよい解決策を見つけていく力も養う必要があると考える。そこで、こうした力を付けるために、プログラミング教育の充実を図り、適切なカリキュラム・マネジメントと授業実践を進めていきたいと考えて研究テーマを設定した。

2 研究に当たって（3つの構え）

- ① プログラミング教育は、現行の教科の中で実践されるものであるから、具体的にどの学年のどの教科・単元で、どれくらいの時間数でプログラミングを扱うか（＝カリキュラム・マネジメント）が重要である。
- ② 小学校段階におけるプログラミング教育の目的は、プログラミング言語の使い方を覚えることではない。プログラミング教育を通じて育成すべき資質・能力は「プログラミング的思考」という言葉で表現され、「物事には手順があり、手順を踏むと、物事をうまく解決できるといった、論理的に考えていく力」のことである。
- ③ プログラミング教育は、パソコンやタブレットなどの ICT 機器を使った授業も当然想定されているが、ICT 機器を使わなくてもできるプログラミング教育も、思考を育む上では重要である。

図1 プログラミング教育・情報教育年間計画

3 これまでのあゆみ

以上のことを踏まえ、泉小学校では令和元年度より「プログラミング教育・情報教育年間計画」（図1）を作成してきた。

令和2年度には各学年が11月までに授業を実践する予定である。9月までに実践を終えた2つの授業の概要は以下のとおりである。

- ① 4年生社会科「都道府県はかせになろう」
都道府県名をあてる3ヒントクイズを作成することで、都道府県の位置関係について理解を深めた。児童は3つのヒントを出す順番を工夫することで、3つのヒント全部を聞いてようやく答えが一つに限定される問題のように論理的に考えることができた。
- ② 6年生理科「電気と私たちの暮らし」
周囲の明るさによって光り方を変えるプログラムを作成することで、携帯電話の節電のための工夫について考えた。児童はプログラミングソフト「スクラッチ」を使って3段階に明るさが変わるようにプログラミングをして、micro:bitの光り方が実際に変わることを確認する活動を通し、節電の大切さについて考えることができた。（図2）



図2 児童が作成したプログラム

4 今後に向けて

これまでの実践を通して、プログラミングの活動を取り入れても、教科のねらいからずれないように授業を組み立てることに課題を感じている。

今年度実践した授業については、授業研究会を通して見えてきた課題を踏まえて指導案を改善し、1月20日に報告できるように研究を深めていく予定である。

自己を見つめ、仲間と共によりよい生き方を求める生徒の育成

～主体的・対話的で深い学びのある授業づくり～

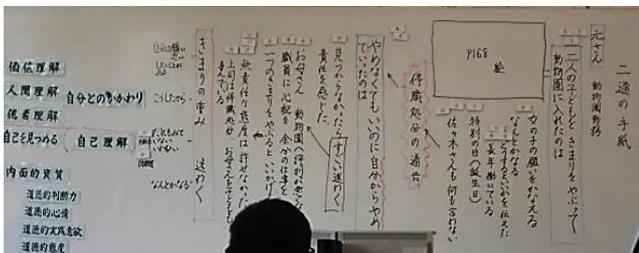
土岐市立駄知中学校

本校では昨年度、道徳科の授業を要とした授業改善を推進してきました。この取組では、以下のような成果が見られました。

- より身近な場面を想定して、道徳的価値から自分を振り返ることができた。また、これからの生き方について、考えを深めることのできる生徒が増えた。
- 多くの生徒が地域住民・保護者と関わって活動すること（ボランティアなど）に楽しさを感じることができた。

今年度は、昨年度まで行ってきた道徳教育の取組を継続させつつ、今年度の生徒の実態に合わせた改善を行っています。

また、本校では、昨年度から引き続き岐阜聖徳学園大学の河合宣昌先生にアドバイザーとして来ていただき、「考え、議論する」ための授業づくりや、「自己を見つめる」ための授業づくりについて教えていただきました。



〈二通の手紙の板書〉

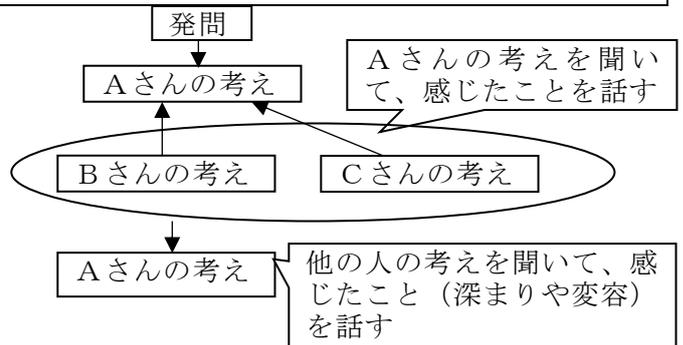
「考え、議論する」道徳授業を目指し、以下の流れを大切にしています。

- ①自己理解（自分の考えをもつ）
- ②他者理解（交流する）
- ③確かな自己理解
（もう一度自分の考えを見つめる）

自分の考えをもって交流し、もう一度自分の考えを見つめることで、考えの変容が見られます。

また、こうした流れは、道徳の授業だけではなく、他教科においても活かすことはできます。

交流場面では、図1のような話し合い活動も取り入れています。



〈図1 話し合いの構造図〉

また、「自己を見つめる」場面では、遠い未来のことだけを見つめるのではなく、過去や今から未来を見つめることを大切にしています。自分がこれまでできていたかどうかや、その行為や考え方について、今、そのことを思うとどうなのを見つめます。そのことから、よりよく生きようとする実践意欲につながっていくと考えています。

本校では、昨年度に引き続き、「1家庭1ボランティア」の取組も行っています。今年度は、新型コロナウイルスの影響でボランティア活動を行うことはできませんでしたが、家庭の中でも自分が誰かの役に立つことができることに気づき、実践をしている生徒が多くいます。取り組んだことで、親の大変さに気付くことのできた生徒や達成感を味わっている生徒が多く、「やってよかった」と、実感することができました。

地域の方からは、こんな声をいただいています。

ボランティア活動を通して、地域の方々と中学生がふれあい知り合うことで、子を見守る地域の基盤づくりにもつながりますし、社会貢献意義・皆で取り組む協調性など社会学習の場として中学生の良い経験になっていると思います。

今後も学校教育で培った道徳性を一層育むために、家庭や地域と連携を図り、1家庭1ボランティアの取組をさらに進めていきます。

【学力向上推進委員会の取り組みから】

令和2年度 下石小学校の実践報告

学力向上企画委員 下石小学校 山内 舞華

小学校4年生

「2けたの数でわる計算」

1 終末の姿の具体化

$60 \div 20$ の商が $6 \div 2$ と同じ3であることは、児童から自然に出てくるのが予想される。計算処理の方法として理解している児童が多いためと考えられる。そのため「なぜ3という商になるのか」という考え方を問うことを大切にしたいと考えた。したがって、計算の仕方を説明することを終末の姿としてえがき、本時のねらいを以下のように設定することとした。

【本時のねらい（第1時／15時）】

何十でわる計算の仕方を、10を単位とした数の見方に着目して考え、説明することができる。【思考・判断・表現】

本時大切にしたい数学的な見方・考え方は、10を単位とした数の見方に着目することである。よって、本時の終末の具体を【図表1】のような説明とした。



$60 \div 20 = \square$ の計算は、**10をもとにして**考えると、 $6 \div 2$ の計算で求められます。
 $6 \div 2 = 3$ だから、 $60 \div 20 = 3$ です。

【見方・考え方】
10を単位とした数の見方に着目する。



Aさんの⑩の丸図で考えた説明と、Bさんの10の何こ分で考えた説明の同じところは、10をもとに考えているところです。
2人とも**いくつ分で考えて**います。

【見方・考え方】
ひらめきアイテム「いくつ分で考える」を使っていることに気付く。

【図表1 終末の姿の具体化】

2 明確な課題のづくりの工夫

主体的な学びを生み出すために、これまでの既習事項では説明できないことに対して子どもが疑問を抱き、自ら問題を発見できるような事象提示を行うことが大切であると考え。問題意識をもって必然性のある課題を設定できるようにしたい。本時では、【図表2】のように、 $60 \div 20$ と式を立て、これまでの学習とのちがいに気付かせた後、明確な課題を設定できるようにした。

本時の学習活動

①問題を提示する。

60枚の折り紙を1人に20枚ずつ分けます。何人に分けられますか。



わる数が2けたになっているところが今までとちがうよ。

②式を立てる。

$60 \div 20$

60は⑩の丸図を使って考えたらできるのではないかな。



③課題を設定する。

わる数が何十のときの計算の仕方を説明しよう。



今日の課題は、わる数が2けたの計算の仕方を考えることだね。

【図表2 課題設定までの学習活動】

3 おわりに

先生の言葉で課題をつくったときよりも、自分で課題をつくれたときは、授業がよく分かるような気がする！

K女が授業後にこう話してきたことがある。「土岐市スタンダード授業」の令和2年度の重点である終末の具体化と課題設定は子どもたちの「できた」「わかった」につながると確信している。今後も、K女のように主体的に学習に取り組む姿をめざして実践していきたい。

【学力向上推進委員会の取り組みから】

令和2年度 土岐津中学校の実践報告

学力向上企画委員 土岐津中学校 野田大貴

土岐津中学校では今年度、生徒の理解や達成感を高めるために、終末の具体的な姿を想定し、課題設定を行う取組をしている。その中で、社会科の実践を紹介する。

中学校 第2学年 社会科（地理分野）

「中国・四国地方の人々の営み」

1 終末の姿の具体化

社会科地理分野の「日本の諸地域」の学習では、7つの地方の地域的な特色をそれぞれ学習していく。その際、どの地方の学習でも第1時では生活の舞台である自然環境を学び、第2時では産業と生活を営む人々の様子を学ぶ。中国・四国地方は、7地方区分の中で2番目に扱う地域である。前単元の「九州地方の人々の営み」では、人口は人口、産業は産業として別々に考える生徒が多く、その関係性まで踏み込んで考えている生徒は少なかった。そこで、本時は人口と産業を関連付けながら地域的な特色を捉える姿を増やしたいと思い、終末の姿を以下のように設定した。

【終末の具体】

仲間に対して、「中国・四国地方では、海上交通の便の良さを生かして瀬戸内海沿岸で工業が発達しており、その工場が集まっている地域に人口が集中している。」という旨の説明をすることができる。〈思考・判断・表現〉

2 明確な課題づくりの工夫

生徒自身が学習課題に対して主体的に挑み、必要に応じて仲間と協力し合いながら課題解決に取り組むためには、出口を意識し、1時間の授業を一貫して追究することができるような課題の設定が大切であると考えている。そこで、本時では前単元の学習で身につけた人口分布

と産業の特色の読み取り方を生かしつつ、それらを重ね合わせて考えられるようにしたいと考えた。また、読み取った内容を仲間に説明する活動を織り交ぜることで、説明するために前もって自分から意欲的に調べたり、仲間の説明を聞いて、さらに自分の考えを深めたりする姿を引き出したいと考えた。そこで、以下のような学習課題を設定した。

【学習課題】

中国・四国地方の人口の特色を産業と関連付けて考え、仲間に説明できるようにしよう。



【図 授業の終末で仲間に説明している様子】

3 授業を終えて

【生徒の書いた終末でのまとめ】

瀬戸内海沿岸では、工業用地や農業、漁が行われており、人口が多く集まっている。
工業地では石油コンビナートなどが使われていて、日本の経済を支えている。

授業後に回収したノートを読んでもみると、前単元と比べて、上記のように人口分布と産業とを関連付けながら、まとめを書いている生徒が増えていた。

今後も、終末の姿を具体的に想定し、それに向けた課題設定を心掛け、実践を積み重ねていきたい。



子どもたち1人1人にタブレット型PCが導入されます

教育研究所 主任 加藤望

GIGA スクール構想の急加速を受けて、本市においても、タブレット型端末PCの1人1台導入と、高速大容量の通信ネットワークの一体的な整備が進められています。この構想の背景に

は、社会構造や雇用環境が大きく変化する時期が間近に迫っていることや、発達障がいや外国にルーツをもつ子どもたちの顕在化等を受けて、今後は、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を持続的に実現させる必要があるためだと言われています。また、超高齢化社会や人口減少・少子化といった問題は、本市のみならず日本社会全体の問題として取り上げられており、生産人口の減少に対する手立ての1つとして人材育成が大きな課題であるとともに、ICT 機器を効果的に活用したこれからの教育に大きな期待感が向けられているところです。

ICT教育を通して児童生徒に付けたい力

学力

情報活用能力

論理的思考力

学 力

端末PCは、学校の備品として導入され子どもたち1人1人に貸与されます。その端末を使って、子どもたちの「やってみたい」を引き出し、「できた」「わかった」を実感できる授業をつくりあげていきます。1人につき1台が手元にある利点は、個に応じた学習の可能性が広まることです。活用の仕方によっては、特別な支援を要する子どもの学びを保障したり、協働的な学びを促進したりすることもできます。

情報活用能力

超スマート社会・Society5.0を生きる現在の子どもたちにとって、端末PCは日常的なものであり、これからは鉛筆やノートと並ぶ学習道具の1つとなります。進む情報化社会で生きていく子どもたちは、このICT機器を適切に取り扱い、情報技術を効果的に活用する力を身に付ける必要があります。

一方、ネットいじめ、ネット依存、ネット加害・被害といったインターネット上の諸問題から回避する力を身に付けるための情報モラル教育も不可欠といえます。

論理的思考力

グローバル化・多国民との共生社会で生き抜く人材を育成するために、これからは「結果を得るためにどう考え、どのように実行命令すればよいか」というプログラミング的思考も大切です。プログラミング教育は今年度から小学校で、来年度は中学校で実施となっています。

土岐市ICT教育推進委員会による提案
(取扱いや指導計画を掲載した手引き書の作成)

情報リーダーを核に校内研修体制の確立

職員研修 指導計画 環境整備

端末PCの導入に伴い、学校の授業はどのように変わのでしょうか。皆様は大きな不安を感じられているかもしれません。ICT機器はあくまで道具であり手段です。鉛筆を使った漢字の練習には、しっかりとその意味があります。今後の教育の在り方を考えるにあたり「ICT機器を使って教育を進める」のではなく、「ICT機器も使って…」と捉えていく必要があります。

手段が大きく変わる今だからこそ、目的や子どもに付けたい力を見つめ直し、効果的に道具を使ったICT教育の推進を図っていきたいと考えています。

言葉には魂が宿っている

泉西小学校 校長 郷 通芳

私は、気になる言葉に出会うとメモをしたくなります。おかげで私の手帳には、たくさんの言葉が書き込まれています。「心にひびく言葉は？」と問われると、一つに絞るのは難しい。だから、最近の出来事から述べさせていただきます。

ある6年生の児童から、絵葉書をもらいました。冬景色の金閣寺の葉書。裏には、「修学旅行で京都に行けませんでした。お父さんとお母さんが連れて行ってくれました。(以下略)」と書かれ、「校長先生にも京都の気分を味わってもらいたくて…」と言葉を添えてくれました。気持ちのこもった葉書でした。

草むしりをしていると、「いつもありがとうございます。一緒にやります。」と声を掛けてくれる児童。横断歩道で待っていている車に深々とお

辞儀をする児童。「ありがとう」があふれる世の中。コロナ禍だからこそ、今まで以上に大切にしたい人と人とのつながり。些細なことかもしれませんが、日常の何気ないやり取りの中で、相手を感じられる心と言葉を持ちたいと思います。

言葉は、他者と自分をつなぐ大切なツールです。昔の人は、「言葉には魂が宿っている。(言霊)」と言い、自分の分身だと考えていました。言葉は、自分という人間を背負うのです。そう考えると、人間力を磨くことがとても大切です。

校長室で話をした要支援の児童が、「母親に言われて心に残っている言葉」と教えてくれました。「『叶う』という字は、口にプラス、マイナスを加えたら『吐く』になる。」

掲 示 板

◇令和2年度 第61回岐阜県学校歯科保健優良校表彰

【大規模校の部】《優良校》土岐津小学校 【中規模校の部】《優良校》泉西小学校

【歯科保健推進校】《歯科保健推進校》肥田小学校

※今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、岐阜県学校歯科保健候補校訪問を中止し、候補校すべてを「優良校」としました。

◇2020年岐阜県発明くふう展

作品の部《中部経済産業局長賞》武藤 希来乃（下石小4年）

《岐阜県発明協会会長賞》川本 翔弥（下石小4年） 桑原 萌夏（土岐津中3年）

《奨励賞》柳生 泰杜（西陵中1年） 《トーカイ賞》下石小学校

◇第64回岐阜県児童生徒科学作品展

《優秀賞》宮地 利奈（土岐津小5年）

《入選》小山 はるき（土岐津小2年） 加藤 るい（下石小3年）

小山 凜咲希（土岐津小4年） 加藤 遙真（土岐津小4年）

岩本 汰朗（土岐津中1年） 片山 紗杏（西陵中2年）

◇第20回社会科課題追究学習作品展

《入選》有賀 結菜（泉中1年）

おめでとうございます！

